

令和3（2021）年度 中部環境パートナーシップオフィス運営業務 年間報告書

■ 概要版 ■

※掲載したデータは全て3月22日時点集計。

■ 業務実施計画の作成及び公表

- 第6期の事業計画、令和3年度業務実施計画等を作成し、EPO中部ウェブサイト及び中部地方ESD活動支援センターウェブサイトに掲載、公開した。

<https://www.epo-chubu.jp/about/target>▶

| 第6期のEPO中部及び中部地方ESD活動支援センターの目標と方針

EPO中部及び中部地方ESD活動支援センターの第6期3年（2021年度～2023年度）の実現目標と実現方針をご紹介します。

第6期の達成目標

アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs活用が進みつつある中部エリアにおいて
新フェーズに対応し、地域が必要とする協働・ESD・SDGsの実装・実践のための支援と、誰も取り残さないターゲット設定、EPO機能強化の関係構築に取り組みます。

■ ESD/EPO運営委員会の設置・開催

- 運営委員9名を選定のうえ、下記の通り、2回の会議を開催し、EPO業務・ESD業務について意見交換及び諮詢を行った。

会議		開催日	主な議事等	
ESD/EPO運営委員会	第1回会議	6月16日 オンライン	運営委員会設置要領について／第6期事業計画と2021年度業務実施計画について／EPO・ESD業務の事務局案について	
	第2回会議	1月22日 オンライン	EPO中部の2020年度実施業務について／EPO業務の今後の展開に 関わる検討事項について	

■ 基本業務

■ ホームページの更新及び維持管理

	URL	年間更新回数・計	年間アクセス数(ページビュー数) 単位:件					
			2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	
EPO中部 ウェブサイト	http://www.epo-chubu.jp	401回	31,647	* 453,373	* 501,670	* 860,157	* 279,316	* 335,028
中部地方ESD 活動支援セン ターウェブサイト	https://chubu.esdccenter.jp	206回		13,357	13,132	12,251	10,612	4,857

※ 2020年度に実施したEPO中部ウェブサイトのリニューアルの際に、アクセス数の照会元をGoogleアナリティクスに移行。(従来の照会元であるサーバー会社によるアクセスレポートが特殊なシステムでページビュー数を集計していたため、一般的なページビュー数を把握できるGoogleアナリティクス参照に変更した。)上表中の*印の数値は、サーバー会社のアクセスレポートによるデータである。

■ リーフレットの作成及び発行

- EPO中部／中部地方ESD活動支援センターの第6期リーフレットを作成した。



■ 照会・相談対応（年間合計件数）

- 相談件数、来館数は増加していないが、地域からの講師等としての招聘、地域主体との打合せなど施設外へ出向く打合せ等(及びオンライン打合せ)の件数は増加している。

照会・相談対応							対話の体制の構築		
※ 案件の事例件数 対応等を行つた	相談に對し支援 等の延べ件数 照会・相談対応	来館件数 ※2 延べ件数 延	頼等 資料配架依 頼等	相談・照会、 会議利用 (資料収集 等)	その他の利用 (資料収集 等)	報依頼等 による相談(広 延べ件数 延)	メール・電話 による相談(広 延べ件数 延)	会議・セミナー 等地域活動への 招聘	その他打合せや 見交換等 地域主体との意 見交換等
							メール・電話 による相談(広 延べ件数 延)	会議・セミナー 等地域活動への 招聘	その他打合せや 見交換等 地域主体との意 見交換等
52	242	94	17	30	47	148	42	84	

※1) 事例件数：最初の連絡から対応終了までの（その間の連絡・打合せ等を含めた）案件ごとにカウントした数。

※2) 延べ件数：同じ案件・用件での来館、メール・電話等であっても、個別に回数をカウントした数。

■ 施設・設備の維持管理（年間施設利用件数）

業務実施日数	開館日数	来館者数	来館件数	メール・電話による問合せ件数
252 日	229 日	147 人	94 件	149 件

■ 協働取組の促進のための業務

■ EPO 中部主催イベントの実施結果

- ローカル SDGs、地域循環共生圏をテーマにした EPO 中部主催イベントを、次表の通り、開催した。

区分		エリア	開催日	開催方法	参加者	実施内容	
①	協働コーディネーターを活用した地域循環共生圏フォーラム	福井県 越前市	11月 20日	現地会場	23名	・協働コーディネーター・三田村氏の協力を得て開催。 ・後援：福井県、越前市、しらやま振興会、坂口地区うららの町づくり振興会、越前市エコビレッジ交流センター。	
②	携協による実践的取組	北陸地域	ワーケーション① 福井県 小浜市	9月 11日	現地会場	14名	・協働コーディネーター・中島氏との連携業務(2年目)。 ・SDGs・地域循環共生圏づくりの普及・啓発事業を展開。
③		ワーケーション② 福井県 小浜市	12月 17日	現地会場	40名		
④		信州地域	フォーラム 長野県	7月 13日	オンライン	54件	・協働コーディネーター・山室氏との連携業務。 ・長野県におけるローカル SDGs の取組の共有、地域循環共生圏コーディネーターの育成を目指した講座として連続講座を開催。(うち初回フォーラムと最終講座のセミナーを連携業務として実施。)
⑤		セミナー 長野県	2月 25日	ハイブリッド (会場:長野県長野市等)	30名・ 件		
⑥	ローカル SDGs/地域循環共生圏グループワーキング	中部	1月 19日	オンライン	40件	・日本福祉大学特任教授・千頭氏による基調講演と、オンラインワークショップによる「地域循環共生圏セミナー」を開催。	



①越前の森里川海で取り組む地域循環共生圏フォーラム「里山里海資源の収益化と地域循環の創出を目指して」



③まちづくり協議会担い手育成研修会



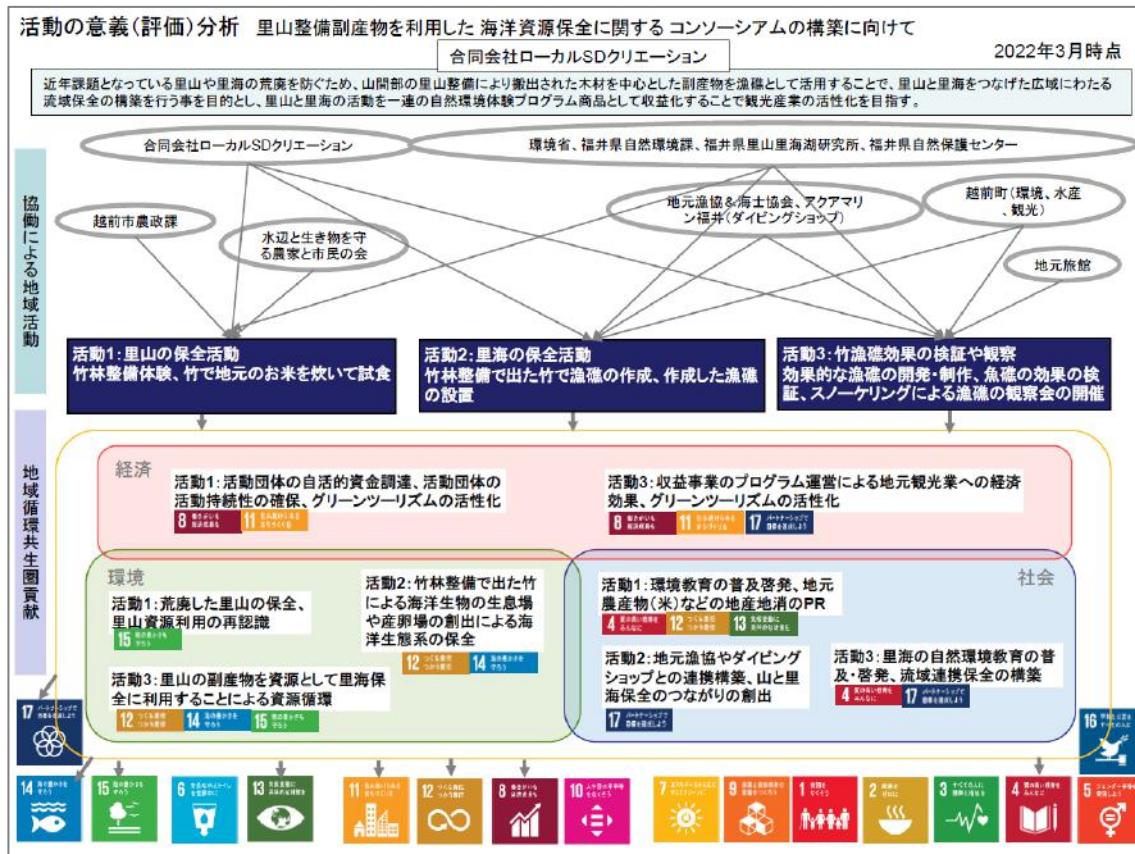
⑤ローカル SDGs テイクオフセミナー
～持続可能なジモトづくりをめざして～

■ 活動主体へのフィードバック（活動見える化プログラムの活用）

- 前項の福井県越前市(主催イベント①)と長野県(同④⑤)の地域循環共生圏づくり支援として、独自ツール「活動見える化プログラム」の取組分析チャート図を作成し、関連イベントで解説するなどして活用した。

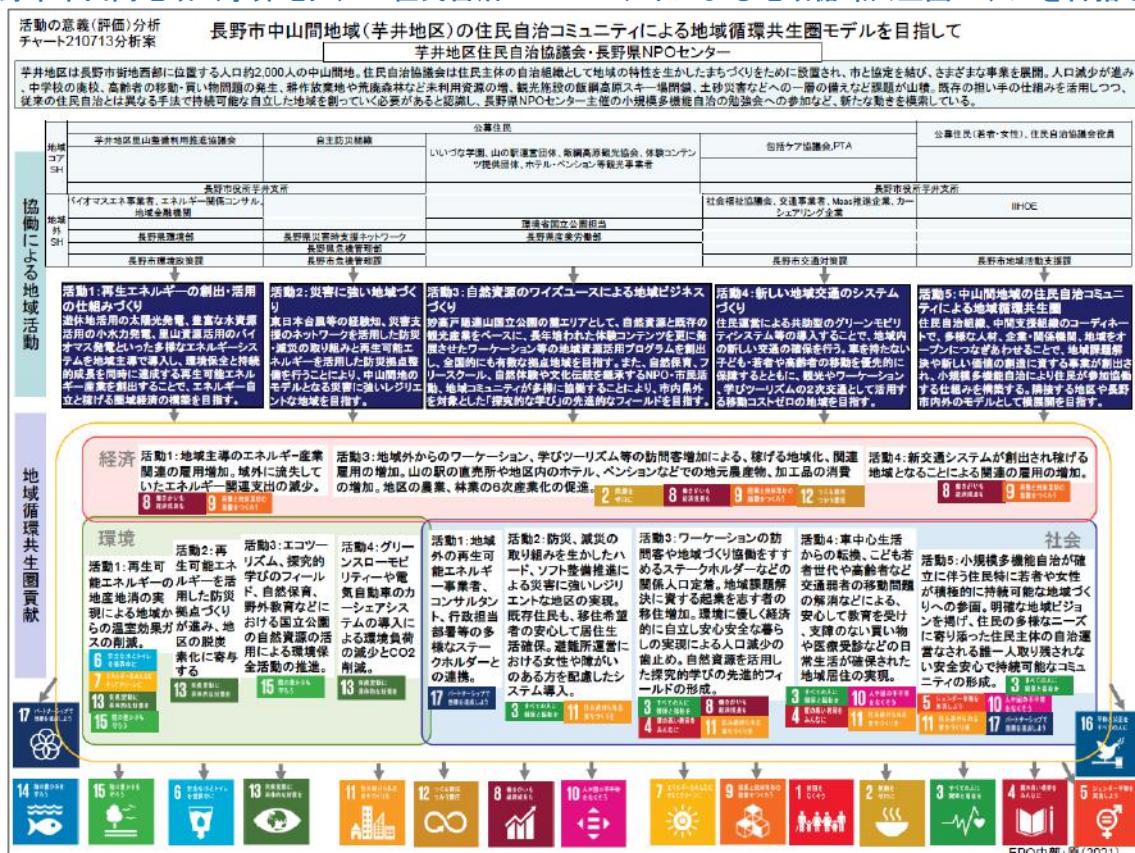
【作成した活動見える化チャート】北陸エリアの事例

里山整備副産物を利用した 海洋資源保全に関する コンソーシアムの構築に向けて



【作成した活動見える化チャート】信州エリアの事例

長野市中山間地域（芋井地区）の住民自治コミュニティによる地域循環共生圏モデルを目指して



■ 域内外の多様な主体の連携促進、交流機会の提供

- 地域内外の ESD 関係者に交流と学び合いの機会を提供することを目的に、SDGs 社会教育研究会ワーキング、及び学び合い(全2回)の開催、実践活動(全1回)を次表の通り、実施した。

	実施日	実施会場/方法	参加者	実施内容
SDGs 社会 教育研究 ワーキング	7月 6日	会場： 福井県福井市	7人	1. 自己紹介と参加者 ESD 活動内容の共有 2. 研究会ワーキングの議論
	9月 30日	会場： 富山県高岡市	8人	1. イベント「学びあい①②」の振り返り 2. ワークブックの議論 3. 実践セミナーの計画
	12月 16日	会場： EPO 中部	7人	1. 実践セミナー(10/30)、全国フォーラムの振り返り(12/11) 2. ワークブックの議論
SDGs 社会 教育～学び 合いの場①	8月 26日	方法： オンライン	65件	○基調講演「ローカル SDGs の担い手に求められる資質・能力、知性とは～持続可能な社会に向けて、好循環を生み出す人のあり方、学び方、働き方」 ○話題提供「求められる担い手：福井県坂井市のまちづくりの取組から考える」 ○パネルディスカッション&フロアディスカッション
SDGs 社会 教育～学び 合いの場②	9月 16日	方法： オンライン	38件	○基調講演「ローカル SDGs の担い手を育成する、SDGs 社会教育実践の現場から」 ○話題提供「担い手を増やすために～環境市民プラットフォームとやまと」 ○パネルディスカッション&フロアディスカッション
SDGs 社会 教育～実践 セミナー	10月 30日	会場： 富山県射水市 午前：六渡寺海岸 午後：JFE 体育館 終日 YouTube でラ イブ配信	現地 24人 YouTube 23件	【午前】六渡寺海岸視察＆ごみ拾い体験 【午後】セミナー＆ワークショップ ○話題提供「プラスチックの功罪、海ごみからの SDGs と市民意識」 ○話題提供「現地視察の振り返り、海岸のごみ清掃活動について」 ○グループワーク「六渡寺海岸のプラごみから SDGs を考える」 ○ワークショップ結果発表と討論 ○総括「実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民」



SDGs 社会教育～実践セミナーにおける六渡寺海岸でのごみ拾い体験の様子(左)と午後のワークショップの様子(右)

■ 中部版 ESD ワークブック (プロトタイプ版) の作成

- 前項「域内外の多様な主体の連携促進、交流機会の提供」の実施内容をもとに、「(仮)中部版 ESD ワークブック～学生・社会人のための地域社会 SDGs 実践」(プロトタイプ版)を作成した。
- 構成・コンテンツ等については、SDGs 社会教育研究ワーキングにおいて検討を行った。

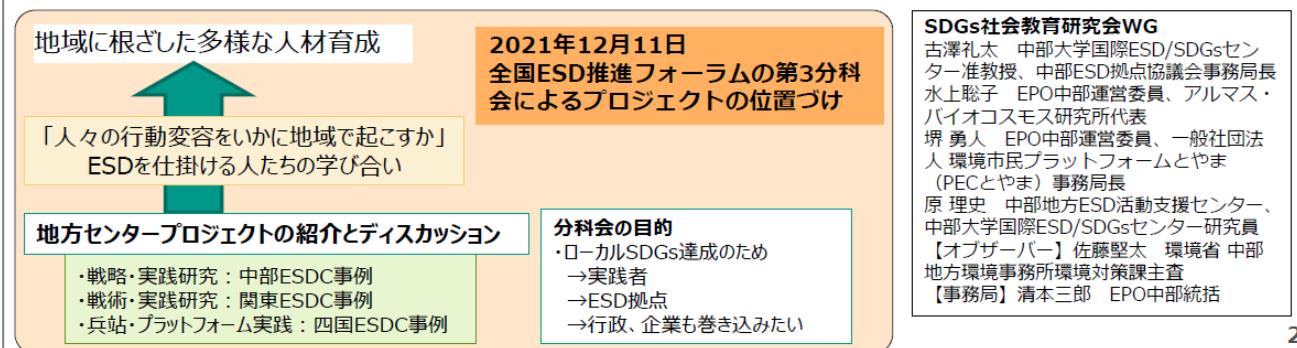
環境省 ESD推進ネットワーク 令和3年度学びあいプロジェクト 令和3年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務	現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック 目次
プロトタイプ版（案）	はじめに 1. ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なわけ 2. 「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になってほしいか 3. 実践方法を考える～中部地方の実例から① 4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から② 5. 実践効果をどう考えるか
現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック 企業研修／生涯学習／地域づくり SDGs社会教育・学び合いヒント	はじめに 1. ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なわけ 2. 「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になってほしいか 3. 実践方法を考える～中部地方の実例から① 4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から② 5. 実践効果をどう考えるか
中部地方ESD活動支援センター SDGs社会教育研究会	
<small>SDGs社会教育研究会WG 古澤赳太 中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長 水上鶴子 EPO中部運営委員 アルマス・バイオコスモ研究所代表 押 勇人 EPO中部運営委員 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやまと（PECとやまと）事務局長 原 理史 中部地方ESD活動支援センター 中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員（非常勤）</small>	

はじめに

環境省の事業であるESD推進ネットワークでは、様々な分野でのESD推進を支援しています。全国8つの地方センターのうち中部地方ESD活動支援センターでは社会におけるESD推進を目的とした支援活動を展開してきました。このワークブック（プロトタイプ版）は令和3年度の地方センターそれぞれが特徴のあるテーマに沿って活動する「学びあいプロジェクト」の1年目の活動成果をとりまとめたものです。中部テーマは「社会へのESDの実装」としており、ローカルSDGsを担う人材づくりをSDGs社会教育と呼び、その枠組みを戦略的に検討することを試みました。プロジェクトではSDGs社会教育研究会WGによる3回の研究会、公開オンラインセミナー2回、公開現地ワークショップ1回、全国ESD推進フォーラム分科会などの活動を経て検討を進めてきました。これらの結果を元にして社会ESDの現場でヒントとなるよう、枠組みを作成したのが本書です。企業研修／生涯学習／地域づくり等の現場で、何か一つでも皆様のお役に立つ内容があれば幸いです。

様々な検討にあたり現地の関係者やその他支援をいただいた皆様をはじめ、ESD推進ネットワークの関係者の皆様に感謝します。特に東京都市大学の佐藤真久先生には、学術的背景をはじめとした専門的な助言に感謝いたします。

2022年3月環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター SDGs社会教育研究会WG



2

■ 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

■ 地域プラットフォームの環境整備支援等業務

- 事業着手にあたり、プラットフォーム(PF)新規採択1団体へのヒアリングを実施し、ヒアリング結果を所定のヒアリングシートに整理すると共に、支援計画シートを作成し、中部地方環境事務所と共有のうえ、PF事業支援事務局本部に提出した。
- また、環境整備団体・計2団体それぞれの意見交換会実施を支援し、関係者の課題共有や地域の未来像・将来の取組に対する考え方共有などのワーキングを実施した。

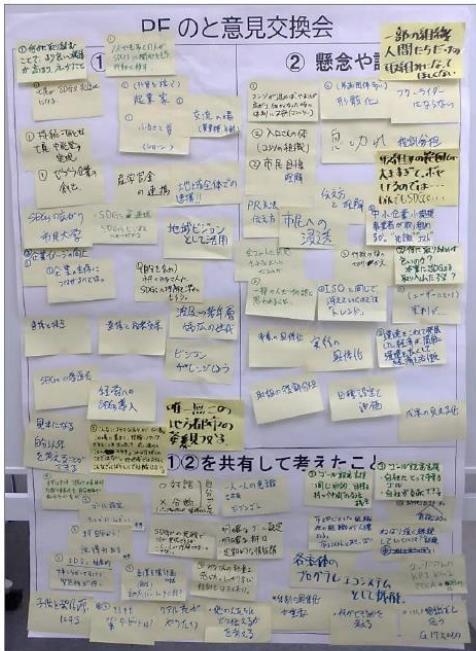
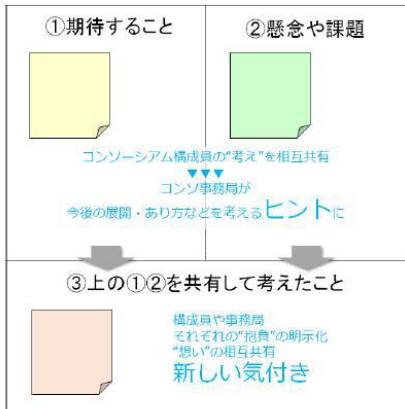
【新規団体を対象にした事業着手時ヒアリングの実施】

活動団体名	実施日等	ヒアリング項目
のと共栄信用金庫 (石川県七尾市)	4月19日 オンラインで実施 PF団体関係者 10名が出席	Q.1: 本事業を通じて、形成するプラットフォームのイメージとは? Q.2: 地域循環共生圏を実現した地域の姿・イメージ(短期／長期)とは? Q.3: 今年度の取り掛かり、何をどこまでやるか? Q.4: 事業を進める上での資源や強みとは? Q.5: 事業を進める上での課題とそれを解決するための方策などは? Q.6: 事業を進めるにあたっての協力者・ステークホルダーは?

【地域循環共生圏プラットフォーム意見交換会等業務の実施】

PF採択団体	実施日等	実施内容
【新規採択団体】PF ななお のと共栄信用金庫 (ななお SDGs プラットフォーム)	9月29日 会場:七尾商工会議所(石川県七尾市) 地域側関係者 20名が出席	プラットフォーム設立に対する期待・課題の共有ディスカッション
【継続団体】PF 郡上 郡上市地域共生圏協議会	11月10日 会場:HUB GUJO(岐阜県郡上市) +オンラインで実施 地域側関係者 8名、財務事務所 3名が出席	郡上市アウトドア事業者協議会、郡上市をまじえて、郡上のアウトドア観光の将来の“スガタ”“カタチ”についてディスカッション

PF事業支援①：PFのと共栄信用金庫→ななおSDGsスイッチ（1年目採択団体）

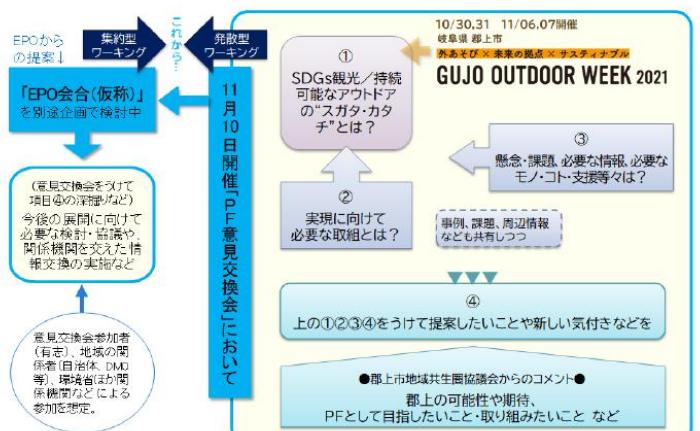


- 9月29日に(PFコンソーシアム設立を前に)、関係者が集まる「意見交換会」をハイブリッド開催で実施。EPO中部が企画・運営(ファシリテーション)を支援。
- コンソーシアム関係者が抱いている懸念・課題を明確化し、コンソーシアム設立(10月16日設立式)に向けて、協力・連携体制のさらなる強化を図った。

PF事業支援②：PF郡上市地域共生圏協議会（2年目採択団体）



【発散型】意見交換会と【集約型】会合で「これから」をまずは共有する



- 11月10日にSDGs実践意識を持つアウトドア事業者と採択団体による「意見交換会」を実施し、EPO中部が企画・運営(ファシリテーション)を支援。
- アウトドア事業者が目指している観光のあり方を明確化し、次ステップで「地域商社」設立について議論することになった。

■ 地域循環共生圏の担い手（団体等）との関係構築

- 地域での地域循環共生圏に通じる担い手を把握し、関係性を構築することを目的にヒアリングを実施し、情報提供等も行った。(※当初2団体が対象となっていたが、次年度・令和4年度の地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業の採択予定数が8団体と、各地方1団体程度になると予想されたため、中部地方環境事務所と協議のうえ、1団体のみヒアリングを実施した。)

ヒアリング内容	越前エリアにおける里山里海保全活動の収益化による地域循環共生圏づくりについての取組概要、地域循環共生圏づくり事例としての循環要素、ステークホルダーとの関係性などをヒアリング
対象者	合同会社ローカル SD クリエーション社長 三田村佳政氏 ※EPO 中部・協働コーディネーター
実施日・方法	2月3日にオンラインによる対面方式で、ヒアリングを実施

■ 森川里海推進ネットワーク形成会合の開催

- 森川里海と地域経済をつなぐことを目的として、森川里海推進ネットワーク形成会合を白山エリア（白山国立公園、白山手取川ジオパーク、白山ユネスコエコパーク）関係者と協力して実施した。

区分	開催日	参加者	開催方法	実施内容
白山手取川ジオパーク&白山ユネスコエコパーク情報交換会	第1回 3月2日	25名	会場：白山市鶴木総合文化会館 +オンライン（一部登壇者のみ）	・テーマは自然資源のワיזユースとローカルSDGs ・白山手取川ジオパーク、白山ユネスコエコパークの関係者、及び連携協定締結団体などに参加を呼びかけて実施。 ・筑波大学准教授・飯田市、白山自然保護官事務所、北陸財務局による登壇あり。
	第2回 3月3日	27名		

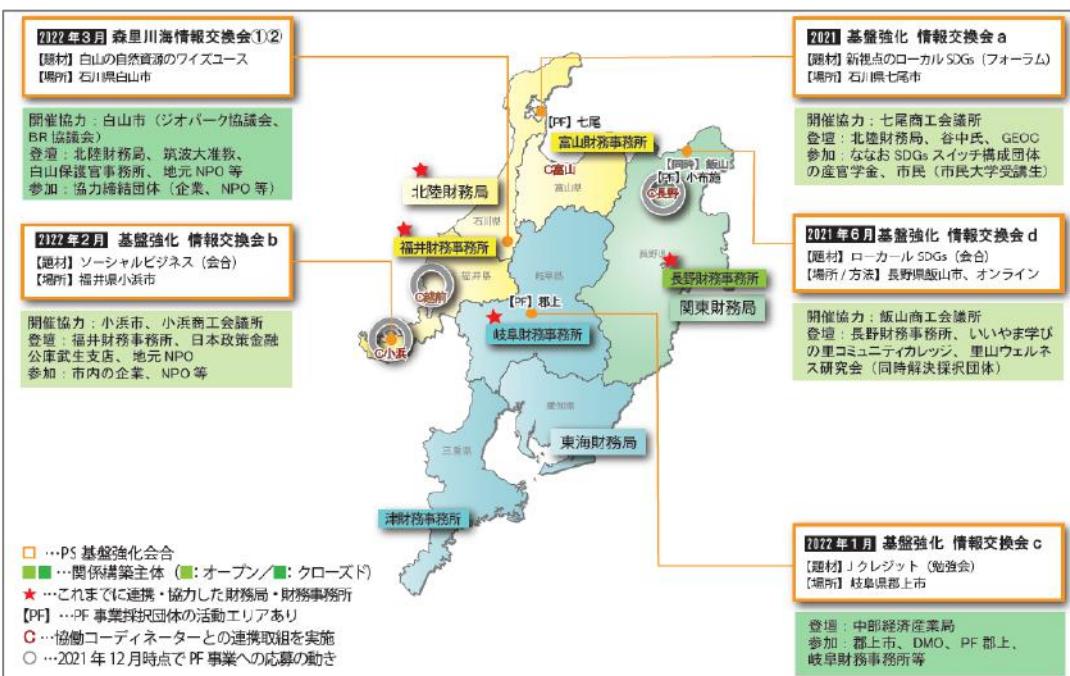
プログラム	
第1回 情報交換会	01 はじめに／森川里海プロジェクトについて 環境省中部地方環境事務所環境対策課 主査 佐藤 堅太 氏
日時： 2022年 3月2日(水) 13:30~16:00	02 環境省からの情報提供 「白山国立公園における取組について」 環境省白山自然保護官事務所 自然保護官 追 裕樹 氏
会場： 白山市鶴来総合 文化会館クレイン 2階・研修室	03 インプット① 「地域が主役のユネスコ活動：白山手取川ジオパークと白山ユネスコエコパークの共有価値とは？」 筑波大学芸術系「世界遺産学学位プログラム・ 自然保護寄附講座」准教授 飯田 義彦 氏
	04 インプット② 地域の取組紹介 白山手取川ジオパーク推進協議会 専門員 日比野 剛 氏
	05 ワークショップ 「白山のワיזユース（恵みの保全・活用）による ローカルSDGs」【その1】 — 決したい地域課題の抽出・共有

プログラム	
第2回 情報交換会	01 はじめに／地域経済エコシステムと 北陸財務局における地域連携・貢献の取組 財務省北陸財務局総務課企画調整官 前田 雅城 氏
日時： 2022年 3月3日(木) 9:30~12:00	02 話題提供：地域の取組事例より NPO法人白山しらみね自然学校事務局長 山口 隆 氏
会場： 白山市鶴来総合 文化会館クレイン 2階・研修室	03 ワークショップ 「白山のワיזユース（恵みの保全・活用）による ローカルSDGs」【その2】
	03-1 —《前回のふりかえり》皆さんが解決したい地域課題について —これから皆さんが取り組みたい事業・地域課題解決ビジネス等の アイデア抽出と共有
	03-2 —終わりに／2日間のまとめ



■ 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

- 地域循環共生圏の相貌を推進するため、企業及び地域金融や経済団体を含めたパートナーシップを強化する目的で、4つの会合を開催した。



開催日		開催日	エリア	開催方法	参加者	実施内容	
①	ローカル SDGs × 飯山ミーティング		6月26日	長野県飯山市	オンライン	22名	• 2018-2019 年度実施の同時解決事業採択団体、長野財務事務所ほか、飯山市の地域づくり団体などが登壇
②	郡上ミーティング		1月27日	岐阜県郡上市	オンライン	15名	• PF 郡上による「J-クレジット」をテーマに意見交換を実施 • 郡上市、岐阜財務事務所などが出席。
③	小浜 × ローカル SDGs × 地域ビジネスミーティング		2月4日	福井県小浜市	オンライン	22名	• 地域活動のソーシャルビジネス化をテーマにした意見交換を実施。 • 北陸財務局、日本政策金融公庫などが登壇・参加。
④	地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化フォーラム in 七尾		2月23日	石川県七尾市	会場：七尾商工会議所 YouTube 配信	26名	• PF 採択団体が主催する市民大学受講生や、PF ななお SDGs スイッチ関係者などを対象に開催。 • BBT 大学教授・谷中氏、北陸財務事務所等が登壇。



▲②郡上ミーティングの画像



▲④地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化フォーラム in 七尾の画像



▲③小浜 × ローカル SDGs × 地域ビジネスミーティングの開催案内

▲①ローカル SDGs × 飯山ミーティングの開催案内チラシ

■ 「SDGs 共感ストーリー」ワークショッププログラムの整理

- 前年度・2020 年度に実施した「資金調達のための SDGs 共感ストーリー」づくりワークショップの内容を、プログラム及びツールとして整理し、EPO 中部ウェブサイトで公開した。

EPO中部のワークショップ・プログラム

ご活用ください！

SDGs共感ストーリーづくりワークショップ

ワークショップの流れ (50分で構成)

目標：自身の取り組みとSDGsの関わりについて共感をもって聞いてもらえる物語を考える

SDGsとのどんな繋りで物語をつくるかを考える

○自身の取り組みとSDGsの関わりの確認 (5分)

(記入していない人は記入。記入してある人はそれを確認)

自分の行動を担当の中に記入する。

・SDGsの取り組みを担当の中に記入する。

・SDGsワークシートを記入。担当のあるゴールと経路を引く。

・なぜそのゴールと関連するか記入する。

○自分から二つ三つの想いを記入する（人に説明する内容であればあるほど）。（10分）

- 取組内容などそのゴールに貢献するのか真面目にするゴール

●共感する物語を考える（ワークシートに記入）

○SDGsのゴールに貢献して幸せになる主人公を考える (5分)

例：ゴール1：自分の生態系の維持

・自分が取組みで何をやっているか説明

・海苔が汚れて飛び散らがない美しい環境の子供たち

・仲間と一緒に海苔を食べて美味しい海苔をつくりたいの気持ち

・実際に囲んでいる人（友達や、家族等）で喜んでほしい

○主人公から見て、SDGsへの貢献で幸せになる物語を作っていてもらおう (15分)

・主人公が何をやったこと

・何でやったこと

・「その結果」が何を実現してくれた（するはずのこと）

・「その結果」の内容、何がどこでどんな人とどうなことをしているのか

・「その結果」の結果どんな文化ができた（起きる）のか

・それによって主人公はどうなった（なる）のか

○共感をもってその主人公の物語を聞いてくれるのは誰か。その人が伝言すべき対象 (5分)

●物語を発表、人気投票 (10分)

- 主要メンバー3例（ぐらい）を発表。参加者全員で人気投票

●出席する物語を考える（ワークシートに記入）

○SDGsのゴールに貢献して幸せになる主人公を考える (5分)

例：ゴール1：他の国の海苔を販売する

・魚が釣れなくなってしまった原因

使用したスライド、ツール資料なども公開。

ケーススタディ・ワーキング
共感を集めるためのSDGsストーリーづくり

SDGsストーリーづくりワークショップ

SDGsストーリーづくりワークショップ

■ ESD/EPO の行事を通じた行動変容の把握

■ 代表的な行事後の行動変容の把握

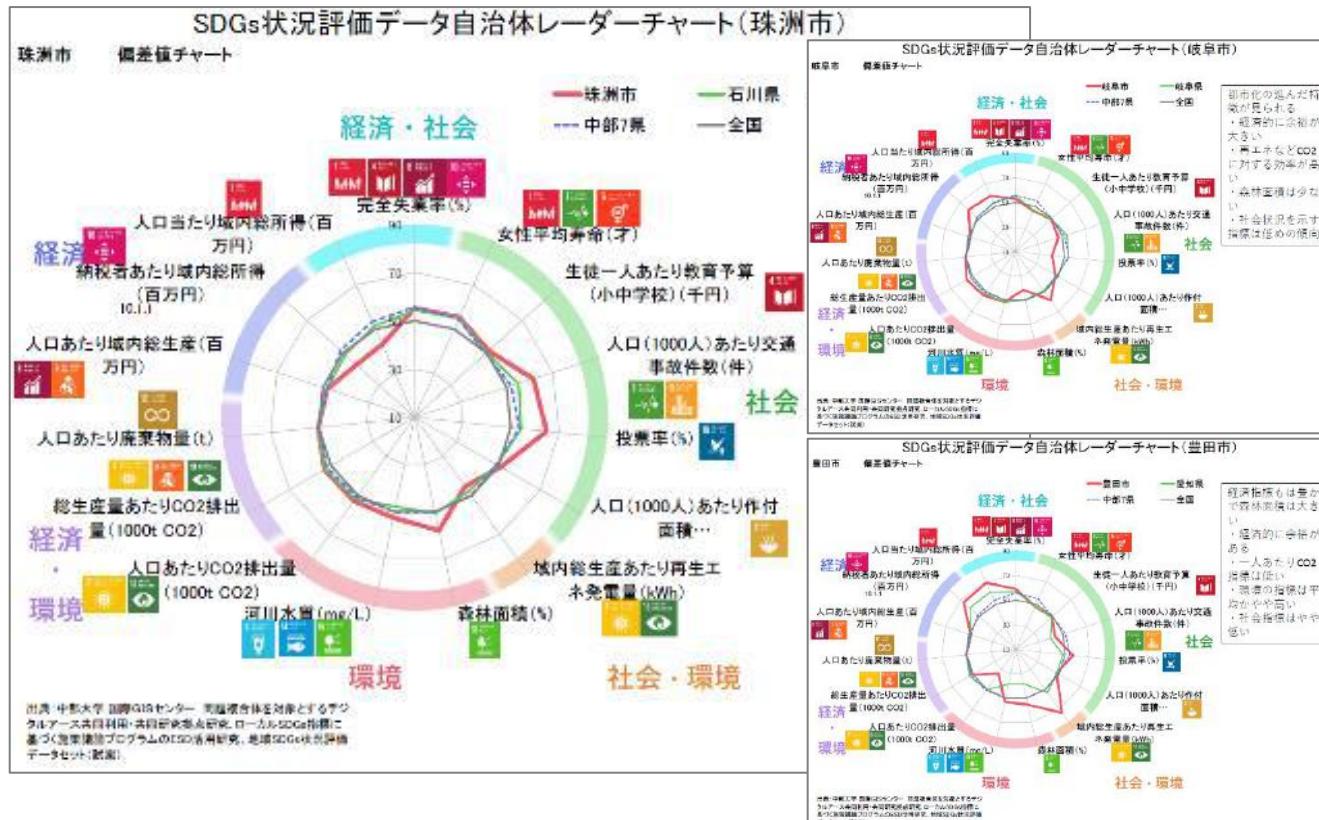
- EPO 業務、ESD 業務、及び地域循環共生圏業務で連携等した関係主体に簡易ヒアリングを実施し、イベント業務等の各業務における成果として、関係者・登壇者等の行動変容について把握する調査を実施した。

業務	2021年11月20日開催・越前の森里川海で取り組む地域循環共生圏フォーラム
対象	(登壇者／開催協力)合同会社ローカルSDクリエーション
内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> 参加した地域活動者・団体による地域循環共生圏づくりに取り組もうとするモチベーションが向上。次年度の地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業への応募に向けて、調整を進めているところである。 ワークショップで抽出された様々なアイデアや意見を、参加者が所属団体に持ち帰り、各団体の次年度計画等へ反映しようとする動きもみられる。
業務	2021年9月11日・12月17日開催・小浜市地域循環共生圏ワークショップ
対象	(共催・協働コーディネーター)NPO法人WACおばま
内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> 第1回目のワークショップが特に市役所職員にとって参考となったようで、開催後に全職員を対象に開催してほしいといった声が聞かれた。 小浜の地域づくり・まちづくりは、従来の地域活性化一辺倒から中々脱却できずにいたが、まちづくり協議会等の勉強会参加者が、SDGs や地域循環共生圏など、持続可能な地域づくりに向けた新しい潮流について理解してもらうことができた。

(ほか4件／計6件のヒアリングを実施)

■ 地域循環共生圏及びローカルSDGs 実践状況等の評価

- 地域 SDGs 評価メニュー、プログラム等の情報収集を行い、3地域(珠洲市、豊田市、岐阜市)を対象に SDGs 評価を試行的に実施し、2月19日開催・SDGs/ESD ネットワークフォーラムにおいて活用した。



■ 関係主体との連携及び協働に関する業務

■ 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

- 中部地方環境事務所の担当官との定期的な打合せを毎月(計14回)実施し、業務の進捗状況、方向性などについて協議を行った。
- 日々の業務について、毎月、所定の様式の報告書を作成し、中部地方環境事務所へ提出した。

■ 中部地方環境事務所が開催する会議への出席、資料作成対応等として実施したこと

行事等	実施日	EPO 中部による対応
環境白書を読む会	7月20日 オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 7月20開催の「環境白書を読む会」について、主催の中部地方環境事務所、なごや環境大学への企画協力、登壇者への謝金支払などを行ったほか、参加者募集の広報協力をウェブサイト、Facebookページで展開した。 当日はEPO中部スタッフもオンライン聴講参加した。
全国ユース環境活動発表大会（中部大会）	（オンライン開催に変更）	<ul style="list-style-type: none"> 審査員として、堺勇人氏（一般社団法人環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長）を推薦した。 ブロック別大会が、オンライン開催に変更となったことをうけて、2022年1月に公開された中部ブロック大会をYouTubeで視聴し、EPO中部ウェブサイトに紹介記事を掲載した。
外部評価委員会	2月14日 オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度EPO中部業務報告資料、及び自己評価シートを作成・記入した。 EPO中部スタッフ3名が同席し、上記資料の説明、質疑対応などを行った。

【外部評価委員会に提示した2021年度EPO中部業務の説明資料（2022年1月末時点作成）】

環境省 中部地方環境事務所
**第6期・EPO中部/
中部地方ESD活動支援センター**
 2021年度の業務報告

2022年2月14日

2021年度の業務報告

第6期・EPO中部/
中部地方ESD活動支援センター

主催イベント・会合等の開催・運営
 1. EPO中部主催イベント・会合
 2. ESDセンター主催イベント・会合

地域循環共生圏づくりの支援
 3. 主に実施した支援
 4. 具体的な支援対象:PF団体や連携団体

独自ツール等の作成・活用
 5. EPO中部ウェブサイト公開ツールの充実化
 6. 中部版ESDワークブックの作成
 7. SDGs実践状況等の評価:SDGs指標物語の構築・活用

相談対応等の基本業務
 8. 相談問合せ件数と対応状況
 9. ウェブサイトの更新状況とアクセス数
 10. 第6期EPO中部(中部ESD活動支援センター)の新リーフレット作成

参考)
 業務成果把握のためのヒアリング(行動変容ヒアリング)

相談対応からの展開；自治体との連携

「NISHIKI SDGs WEEKs」への企画参加

- 名古屋市環境局からの相談対応(後援依頼)をきっかけに、なごや環境大学主催イベントに、EPO中部施設を活用する形で2つのプログラムで企画参加した。

① SDGsチェックリスト活用ミニワークショップ

- 2021年11月8日に、独自ツール「SDGsチェックリスト」等を活用した1時間のミニワークショップを、会場:EPO中部にて2回開催。
- 1回目・2回目合わせて13人が参加。



② EPO内に「SDGs資料の特設コーナー」を設置

- 2021年11月8~12日の間に、EPO施設内にSDGs資料コーナーを設け、自由に来館、配架資料の持ち帰りができるなど、NISHIKI SDGs WEEKs関連広報でPR。
- 期間内に計18人が来館。

- 今回の参加者・来館者にはEPOのことをNISHIKI SDGs WEEKsで知った方もいる。
- その後、別イベントへの参加、SNSのフォローをしてくださった方もいる。

28

■ 全国・各地方とのネットワークの活用及び連携の確保・強化

- 全国の地方EPO・GEOC・ESD活動支援センター等から招請のあった会議・イベント等として計48の会合(オンライン会議等)に出席した。

令和3（2021）年度 中部環境パートナーシップオフィス運営業務 年間報告書	発行：環境省中部地方環境事務所 作成：中部環境パートナーシップオフィス (運営受託：一般社団法人環境創造研究センター) (2022年3月)
--	--

【参考】2021年度業務一覧

中部環境パートナーシップオフィス運営業務 2021年度業務一覧

EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センター

緑色：EPO 業務／水色：ESD 業務／朱色：地域循環共生圏業務／黄色：運営業務

※中部地方環境事務所、EPO は業務全体に関わる

第6期
目標

アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs 活用が進みつつある中部エリアにおいて、誰も取り残されないターゲット設定、EPO 機能強化の関係構築に取り組みます。

年度目標 第5期に作成したツール・コンテンツの拡充と共に、地域循環共生圏づくり・SDGs 推進への支援システム（体制・仕掛け）を充実させます。

